

## 継掃会を終えて・・・

先生は弥富北中学校に来て2ヶ月あまりの新人さんです。自問放送・自問清掃・自問集会と今まで経験したことのない取組を目の当たりにして、すべてが新鮮ですばらしく感じました。2・3年生の自問清掃に向かう姿勢は圧巻でした。

伝統の一つである自問清掃をみんなの手で次の代に受け継ぐための継掃会。15分という限られた時間の中で、言葉を交わさずに伝統を受け継ぐことはとても難しいと思います。でも1年生は、真剣に床を磨き、落ちている細かなゴミを拾う先輩の背中を見て何かを感じ、2・3年生は後輩の姿を見て自問清掃に対するモチベーションを高めることが出来たのではないのでしょうか。今年度は清掃後に3分間のグループ活動を行いました。2・3年生が感じていること、1年生が感じていることを共有することでより深く自問清掃に取り組む姿勢を学ぶことができたと思います。ただ伝統として続けるのではなく、お互いが切磋琢磨してさらにレベルアップできるように、今年度も弥北生と先生全員がチームとなり前進していけるといいなと思います。

下記は1年生の『私の中の私が見たい』です。いろんな感想に出会い、新たな価値観を見つけられるといいですね。

清掃が終わった後の質問で、自分の分からないこと、疑問に思うことなどを聞き、一番勉強になったのは先輩方の清掃への取り組みです。一言も話さず、目でアイコンタクトを取ったり、一度も手を止めずに清掃していたりしていました。やはりまだまだ自問清掃をマスターできていないと感じたので、がんばって先輩に近づきたいです。

今までは友達と清掃していてしゃべってしまうことがあったけれど、清掃に集中することで私の中の私と向き合えるのかなと思いました。また慣れてきたら自分の清掃だけでなく、まわりにも目を向けて親切玉を磨いていきたいです。

3年生から「3年生の教室と比べると、正直汚い」と言われ、僕は気付きました。それは何かというと、「いつもきれいに清掃をしているつもり」ということです。そうじが始まって1ヶ月ぐらいたったけれど、2・3年生とすごく差があることがわかりました。

継掃会をやって、改めて自問清掃が難しいと感じました。汚れたところがたくさんあっても、話せないからです。でも先輩たちは、肩をトントンせずに汚れた場所を自分から気づいて清掃していたので、とてもすごいと思います。

3年生のランチルームへ行ったとき、床がピカピカでおどろきました。私はそれだけ時間をかけて掃除をしているのかなと思っていたけど、実際はすごい速さで綺麗に掃除を進めていてすごいなと思いました。